

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2015年9月1日
No.301



8.30 国会前集会から

各地で広がる「戦争法反対」行動 8・10「8 月度事務局団体会議」「日高連運営委員会」開く 日本高齢者運動連絡会

日本高齢者運動連絡会は8月10日(月)午後、2015年8月度事務局団体会議・日高連運営委員会を開き、12団体14人と事務局あわせて18人が出席しました。

◇

1.情勢と活動報告 2.第29回大会の準備状況 3.大会企画・運営関連 4.基調報告の素案について 5.日本高齢者運動連絡会関係 6.その

他 次回会議予定

各県・団体の活動報告では、南医療生協の総代会でも戦争法に反対する声をあげるなど戦争法案に反対する活動が広がっている(愛知県)。生存権裁判、5名の原告が7/9静岡地裁に提訴した。県社会保障推進協議会が介護事業所の調査を行った。小規模デイサービスの廃業が出ている(静岡県)。大会へ

100 人参加目標に取り組んでいる。川崎火災の問題一人ぼっちの高齢者対策も含め要求を出しているが（神奈川）。戦争法案に反対する活動、青年部では広島までの反核トラックキャラバンに戦争法案反対も盛り込んだ（建交労）。総がかり行動、独自の国会要請行動含め休みなく戦争法案反対行動（民医連）。11/16 埼玉高齢者大会に向けて実行委員会始動（埼玉県）。渋谷ママデモに2千人超をはじめ各地でママデモ。草の根運動の

重要性。リレートークもどんどん広がっている。（新婦人の会）。全国の医療生協で一斉行動期間、カード（シール）を作って活用している。原水禁大会、ピースアクションに参加（医療福祉生協連）。大塚駅前火・木に宣伝行動、戦争法案になって聞く人達が変わってきている。議員への要請、自治体への要請、9/3 全国会議員要請行動。年金裁判は3,300人突破（年金者組合）。

第30回日本高齢者大会の成功めざし 9・10 東京現地実行委 結成総会 東京高齢期運動連絡会

来年東京で開かれる第30回日本高齢者大会の現地・東京実行委員会結成の「呼びかけ人会議」が7月21日、東京労働会館で開かれました。

会は、中央実行委員会の鐘ヶ江事務局長あいさつのあと、石川徹さん（東京民医連会長）を代表に選出。すでに呼びかけ人に都内各団体代表など40人が名を列ねており、会議参加者の自己紹介と、事務局からこれまでの経過と当面の取り組みが報告され、承認されました。

大会日程は2016年8月28日、29日。全体会は東京国際フォーラム（有楽町）を仮予約。分科会会場は大学などと折衝中です。

東京現地実行委員会結成総会を9月10日午後、全日本教育会館エデュカス東京で開きます。「呼びかけ文」はつぎのとおり。

なお、和歌山大会のあと、11月16日に「東京のつどい」があります。



来年2016年8月28日、29日、東京で第30回日本高齢者大会が開かれます。この大会成功のために都内の広範な団体・個人に呼びかけ「東京実行委員会」結成総会を開きます。団体・地域組織・個人を含む多くの参加を呼びかけます。

みんなで知恵と力を出し合って、万余の高齢者が集い、労働者、青年、女性、業者、障害者、医療福祉関係者と固く手をつなぎ、戦争への道に厳しくNOを突きつけ、安心して過ごせる豊かな高齢期をめざす運動の輪を拡げ、新たな福祉国家への展望を切り開く力強い高齢者大会の成功をめざしましょう。

（「東京高連ニュース」再刊6号、8月24日）

原発ゼロを実現し故郷を発展させよう

講演「笑いで心も体もリフレッシュ」

9・5 第28回福島県高齢者大会

福島県高齢者大会は第28回目を迎え、今年南相馬市で開催します。

楽隠居したいが楽な世の中じゃありません。太らない程度に美味しいものを食べたい。でも財布と相談。ちょっとだけはお洒落したい。旅行宣伝は横目でちらり。せっせとお医者さん通い。でも病院や施設、学校、商店も交通機関も足りません。

高齢者だけでなく、若い世代が動き、子育てしていける地域でなくなっています。農林水産の営業は成り立つかどうかの瀬戸際。

大震災と原発被害で、孫子は老夫婦の家を離れていきました。故郷の相双地区がどんどん淋しくなり、消滅しないかと心配です。

原発ゼロを実現しましょう。その上で故郷を発展させたい。

被災地を放り投げておいて、戦争法作りばかり熱心な政治。戦争体験世代の我々は、居ても立ってもいられません。孫子や若者を戦死させないよう、日本にご奉公しましょう。

そんな沢山の思いを持って南相馬に集まり、語り合ってください。

お待ちしております。

実行委員長 大内秀夫

と き 9月5日(土) 10時～15時30分

ところ 「サンライフ南相馬」

参加費 資料代500円、弁当代600円

日 程

10時～分科会

12時～昼食休憩

12時50分～アトラクション

「財宝踊り」(馬場民俗芸能保存会)

13時10分～講演

「笑いで心も体もリフレッシュ」

山口考子氏

主催 第28回福島県高齢者大会実行委員会
福島県高齢者運動連絡会

後援 南相馬市・相馬市

埼玉県内63市町村「自治体キャラバン」

国保税・介護・障害者・保育所・生活保護で懇談

「個別課題で懇談」続けて前進を

埼玉県民主医療機関連合会

埼玉県内63市町村自治体を対象に「自治体キャラバン」を、6月22日から行いました。

「キャラバン」は、①住民の負担能力に応じた国保税を設定し、安心して受けられる医療体制の確立を②改正介護保険の実施は、介

護サービスの低下を招かないよう、自治体の責任で、必要な財源とサービス、職員の確保を③障害者施策は、基盤整備とともに事業拡大をめざして④許可保育所の充実で早急に対機児童の解消を⑤生活保護の申請は、口頭でもできる事の徹底を～の5項目で、事前ア

ンケートを自治体から受けた内容をまとめ、懇談しました。

全国的に大きな成果となりませんでした。自治体関係部課長との懇談を通じて「市民の切実な声」を届けるとともに、市民の立場から医療福祉行政を進めるために、協力協同の姿勢であることや、様々な現状やアイデ

ィアを提供する中で、行政からも歓迎の言葉を多くの自治体でもらうことができました。

今回のキャラバンで終わらせることなく、引き続き「個別課題で懇談」を継続し、医療行政の前進を進めていくことが大切だと思われま

(機関紙「埼玉民医連」No.246 7月号から)

草の根からの共同の行動をもっともっと広げて 憲法違反の「戦争法案」は必ず廃案に！ 第 61 回母親大会 in 兵庫にのべ 11,300 人 日本母親大会連絡会

全国の女性・母親の「安倍政権がねらう憲法違反の戦争法案の強行採決許さない。憲法 9 条守れ」の思いを持ち寄り、第 61 回日本母親大会が 8 月 1 日・2 日、兵庫県神戸市で開催され、のべ 1 万 1300 人が集いました。

全体会も分科会も、草の根から共同と連帯を広げ、前進を勝ち取ってきた経験と、「戦争法案は必ず廃案に」の思いが強く語られ、まさに集まれば元気、話し合えば勇気」という、母親大会ならではのエネルギーに満ちた 2 日間となりました。

大会は、大会決議(案)と大会アピール(案)を満場一致で採択し、憲法 9 条を守り、いのちとくらし・平和な社会を切り開く決意と、明日からの歩みを前進させる力を示しました。

第 61 回日本母親大会アピール

全国のお母さん 女性のみなさん

戦後・被爆 70 年の節目の年、生命(いのち)のスローガンをかけ、母親・女性の願いを結集して、第 61 回日本母親大会が、兵庫県神戸市で開催されました。大会には、全国から 6300 人が参加し、安倍政権がねらう憲法違反の戦争法案の強行採決を許さず、

憲法 9 条を守り、いのちとくらし・平和な社会を切り開く決意と、明日からの歩みを前進させる力を示しました。

全国のお母さん 女性のみなさん

安倍自公政権は 7 月 16 日、衆議院本会議で、憲法違反の戦争法案の採決を強行しました。法案に反対する多くの国民の声と行動を無視した暴挙に「アベ政治は許さない」と怒りの声が湧き上がっています。法案に対して憲法研究者の 9 割以上が「違憲」と判断し、全国の 292 自治体が「慎重」「反対」の立場の意見書を衆議院に提出しています。各社の世論調査で安倍内閣の支持率は急落し、6 割以上の人々が「今国会での成立に反対」し、8 割が「国民への説明が不十分」と答えています。憲法法案は、どこを読んでも、誰がみても、「戦争しない」と誓った 9 条を踏みこじる憲法違反です！これまで認めてこなかった集団的自衛権の行使は、日本に対する武力攻撃がなくても、世界のどこでもアメリカが起こした戦争に日本が参戦するというものです。アメリカの言うままに「海外で戦争する国」をめざす安倍政権を決して許すことはできません。

今、「戦争法案」反対の運動は全国に広がり反対の 1 点での共同が無数に生まれ、特に

青年・女性たちが立ちあがり、学者・専門家、文化人などの各階層から、これまでにない新たな行動を連日繰り広げています。沖縄の辺野古新基地建設反対、原発の再稼働許さない、TPP 交渉への参加反対など、大きくひろがった草の根からの共同をさらに発展させ、「戦争法案」を必ず廃案に追い込むために奮闘しましょう。

全国のお母さん 女性のみなさん

世界の母親・女性が手をつなぎ、「核戦争から子どもを守りましょう」とはじまった母親大会から61年、私たちは毎年「日本母親大会」を開き、あゆみつづけてきました。このあゆみを確信に、母親・女性たちの切実な願いをかかげ、激動の情勢にしっかりとむき

あい、連帯をいっそうつよめ、子どもたちに「核兵器のない平和で明るい未来」を手渡すために、ともに力をあわせましょう。

今、私たちは「海外で戦争する国」に向かうかどうかの歴史的岐路に立たされています。母親大会の生命のスローガンを高くかかげ、「戦争法案絶対反対！愛する人を戦場に送らない」行動の先頭に立ちましょう。

“^{いのち}生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることを望みます”

2015年8月1日

第61回日本母親大会

(「母親しんぶん」2015年8月20日より)

高齢期運動を元気にする、エネルギーとヒントがここにある 「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」 篠崎次男氏著 高齢期運動のブックレットNo.2発刊

(社) 日本高齢期運動サポートセンター

日本高齢者大会が始まってから30年。最初から高齢者運動の先頭に立ってきた筆者が、高齢者運動の歴史と成果をまとめ、新たな高齢期運動のあり方を提起します。高齢者運動を学ぶテキストとして最適です。第29回日本高齢者大会in和歌山の学習講座のサブテキストでもあります。



(定価 500円)

川内原発再稼働に怒りの声 全国から2000人集結

全国生活と健康を守る会連合会

福島第一原発事故から4年5か月、九州電力は8月11日、多くの国民の反対を押し切り、川内原発1号機の再稼働に踏み切りました。

政府はこれを皮切りに、つぎつぎに各地の原発を動かす計画です。

原子力規制委員会は「新しい基準に合格し

た」と言いますが、原発は、安全になったわけでも、使用済み燃料の処分方法が確立されたわけでもありません。国民の強い反発を押し切った再稼働は、国民の命と暮らしよりも、財界の利益優先という安倍政治の姿勢を明確に示すものです。

9日には、熱中症が心配される猛暑の中、川内原発近くの九見崎海岸に鹿児島県下からはもちろん、全国各地から約2000人が詰めかけ、再稼働反対の大集会が開かれたほか、10日、11日にも原発のゲート前で数百人規模の抗議行動が取り組まれ、「再稼働やめよ」「原発なくせ」の怒りの唱和が繰り返されま

した。

9日の集会には、鹿児島市と出水市の生健会からも7人が参加。暑さの中で汗だくになりながらゲート前までのデモ行進もがんばりました。中嶋敏子出水市生健会事務局長は「避難計画も地震・火山対策も極めて不十分なまま。福島第一原発の大事故はもう忘れたのか。どこからどう見ても道理のない再稼働は許せない」と怒ります。これからも原発をなくすまで闘いは続きます。（祝迫加津子通信員）

（「生活と健康を守る新聞」No.2274 8月30日付）

第3回総会・井上英夫さんの記念講演 「人間らしく生きたい」に151人 生活保護制度を良くする会

「生活保護制度を良くする会」は、29日（土）「札幌エル・プラザ」ホールで総会を行い、「新・人間裁判」の原告48人をはじめ151人が参加、この1年の運動報告と方針、財政報告が承認されました。役員体制はこれまで通りです。

裁判は民主主義の学校。運動は、頑張らずに楽しくやりましょう！～講演で井上氏語る

総会に先立って井上英夫氏（生存権裁判全国連絡会会長・金沢大学名誉教授）による記念講演「人権としての社会保障・生活保護と社会保障裁判の意義」と題して行われました。井上氏は「これまで十分頑張ってきたから、もう頑張らなくていいようにしよう！」「頑張らなくても人間としての尊厳と安心が保障される社会にしていかなければならない。頑張らなきゃいけないのは国・政府じゃないですか」と切り出しました。そして、全国の生存権裁判の取り組み状況、スウェーデンの社会保障の到達などを紹介し、

新・人間裁判が「国民全体のくらしの水準を高める意義を持っている」と強調、「一緒に、楽しく運動しましょう」と呼びかけました。総会では、運動報告と方針、財政を、全参加者で承認

総会は、大橋晃共同代表の挨拶で始まりました。「戦争法案との闘いが正念場を迎えています。社会保障の岩盤をなす生活保護制度を守る闘いは国民の命とくらしを守る闘い。広く大きな闘いにしていきましょう」

次に細川久美子原告世話人代表から総会に参加した48人の原告が紹介され、後藤昭二原告団団長が挨拶。そして内田信也弁護士団長は、「社会保障の闘いは勝ち負けではないと言われましたが、弁護士としては勝つためにやっている。明確な憲法25条の2項違反。若者を含めた全世代の運動にまで広げて勝って決着をつけたい！」、渡辺達生弁護士事務局長は、「闘い方としては、どれだけ厳しい生活を強いられている現状があるかを繰り返し突き付けること、引き下げの根拠がいかにいい加減なものであるかを事実で証明することです。そのために、実態把握が重要

なので原告の協力が必要です」と話されました。

1年間の運動の報告と方針案の報告は、三浦誠一事務責任者が行いました。

最後に閉会の挨拶に立った肘井博行共同代表は、「社会保障の闘いは、裁判の結果とは別に新しい分野を切り開く可能性を秘めて

いる」「失う物は何もないので胸を張って、正々堂々と闘っていきましょう」と結びました。

(「生活保護制度を良くする会ニュース」

2015年08月31日 61号)

戦後70年の終戦記念日にあたって (談話)

全国労働組合総連合 事務局長 井上 久

本日、日本は戦後70年の終戦記念日を迎えた。全労連はあらためて、日本軍国主義による侵略戦争と植民地支配の犠牲となられた方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、戦争への痛苦の反省のうえに打ち建てられた憲法の平和主義と9条を守り抜く決意を表明する。

昨日出された安倍首相の談話には、「侵略」や「植民地支配」「反省」「お詫び」などの言葉が入りはした。しかしながら、「反省」や「お詫び」は過去の歴代政権が表明してきたという指摘に止まっており、日本が「侵略」や「植民地支配」をおこなったことや従軍慰安婦問題などの歴史的事実の明確な指摘と、それに対する「反省」や「お詫び」とはなっていない。

国内外の批判の高まりで、構想・原案段階にはなかったといわれる、それらの言葉を一応盛り込みはしたものの、心そこにあらずの不誠実な態度といわざるを得ない。これでは「過去の歴史に真正面から向き合う」姿勢ということはできず、アジアや世界の人々の懸念を払しょくし、相互理解と平和・友好を前進させるにふさわしい談話とはいえない。

安倍談話は、「いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これが

らも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります」とする一方で、結論としては「『積極的平和主義』の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります」という矛盾した宣言をおこなった。ここにいう「積極的平和主義」とは、現代平和学の開拓者とされるヨハン・ガルトゥング氏が提唱した「積極的平和」(戦争のない状態＝「消極的平和」にくわえ、貧困、抑圧、差別などの構造的暴力がない状態)とは似ても似つかない言葉の流用にほかならない。その実態は力(軍事力)を基調に日米同盟においてより主体的に行動しようということであり、その具現化が戦争法案(安全保障関連法案)である。

安倍首相が“戦後70年”の談話において、憲法違反が明白な力による政策推進を宣言したことを厳しく批判し、国民的な世論と運動をさらに強め、戦争法案を必ず廃案に追いこむために、全労連は組織の総力をあげてたたかう。

安倍首相は「戦争を未然に防ぐもの」と説明するが、それは過去の大戦の教訓とも、また近年、アメリカが起こしたアフガニスタンやイラク等への侵略・干渉が泥沼の内戦とテロをうみだしていることにも反している。憲法の平和主義にこそ、世界と日本の平和な未来があることは明らかであるし、世界の多く

の人々もそれを求めている。全労連は、戦争も核兵器もない平和な世界と日本をめざして、国内外の広範な人々との連帯をさらに強

化していく。

2015年8月15日

松本善明氏とともに侵略と被害を語り合う 城西診療所健康友の会など実行委員会

戦後70年の終戦記念日8月15日、元海軍兵学校生だった松本善明氏(89歳 元衆議院議員・弁護士)をお呼びし、平和と戦争を語る集いを開きました。36人が、戦時中食べたすいとんを味わいながら、戦争体験や平和への思いを語り合いました。



松本氏(写真右)は、圧倒的な国力ももつアメリカとの無謀な戦争は、日本の首脳部が「日本は神の国」だと天佑神助を信じ始めたことと指摘、中学の旧友が焼夷弾の直撃や防空壕での焼死で亡くなったことにふれ、都市空襲で多くの民衆が殺された戦争だったと話しました。

日清・日露戦争から続く侵略の歴史の深くとらえることが必要だと、安部首相の戦後70年談話の問題点にも触れました。

戦争の惨禍から生まれた日本国憲法の柱の一つは世界平和だとして、北東アジア平和協力構想は日本が動けば現実的目標になると語りました。

中野共立病院副総師長の徳重節子さん(写真上)は原水爆禁止世界大会・長崎の参加報告。背中が焼けこげ、うつぶせの生活で胸にこずれができ肋骨がとけ、肺活量も少ない被爆



者がかすれ声で語った被爆体験に衝撃を受け、「被爆者は今も後遺症に苦しんでいる時に、なぜ戦争にすすもうとしているのか、戦争法案に怒りがこみ上げてくる」と話しました。

参加者からは「東京大空襲を語りたがらない母も、まつ黒なマネキンのような死体の中を歩いたことだけは話した」「身障者と高齢者を抱えた家族は一緒に逃げられず、障がい者が犠牲になった例もある」「学校は勉強するところではなかった。毎日、軍事教練だった」「中野区では刑務所の囚人も動因して家屋疎開が行われた」など戦争の様子が語られました。また、「兵士として、一人の敵兵を殺せば後ろで何人もの人が悲しむものだと分かり、反戦思想が芽生えた」「加害の地、中国に行ってみてこそ分かることがある」「戦争しない国にするためには教育が大切、戦争体験を継承していこう」などの意見もありました。

主催は城西診療所友の会や地域の9条の会などをつくる実行委員会。